

アユ種苗5万尾（那珂川系F1）を標識放流しました！

2024. 4. 10 栃木県水産試験場

【河川での成長や釣れ具合を調べるために那珂川系F1種苗を試験放流しました】

初めて早期遡上アユから作出した那珂川系F1種苗について、今のところ養殖場での飼育成績は良好*ですが、川に放流してどうなるかが気になるところです。そこで、栃木県漁連、那珂川漁業協同組合連合会、黒川漁協、水産試験場で試験放流を実施しました。

4/5 黒川（鹿沼市） 1万尾（平均4.8g）

4/7 那珂川（那珂川町） 4万尾（平均4.8g）

【見分けがつくように標識（脂ビレ切除）しました】

成長や釣れ具合を調べるためには、釣れたアユが那珂川系F1種苗かどうかを見分けられるようにしておく必要があります。そこで、今回放流した全てのアユの脂ビレを切除しました。これによって、今後大きく育ったアユを釣ったときに脂ビレがあるかどうかを確認することで、那珂川系F1種苗を見分けることができます。

【多数のボランティアに御協力頂きました】

アユの脂ビレを1尾1尾切除するには、とても手間がかかる作業です。黒川では約15名、那珂川では約35名で標識作業を行いました。漁協だけでなく、釣り人、ひとコト sakana 栃木PR アンバサダー、釣具店スタッフなど、多数のボランティアに御協力頂きました。この場を借りて、感謝申し上げます。

【試し釣り、解禁日、釣り大会などで釣れた標識魚を調査していきます】

今後は、試し釣り、解禁日、釣り大会などで、釣果に占める標識魚の割合や大きさを調査していきます。例えば、黒川の試験放流エリアでは“那珂川F1種苗：七色系種苗＝1：3”の放流比率となる予定ですので、もしも釣果に占める比率が1：3なら七色と同じくらい釣れたということになります。

【調査結果は、次年度の栃木県漁連の生産計画や各漁協の放流計画に反映されます】

組合員の減少によって、漁協だけの活動が難しくなっていますが、釣り人等との協力によって、データに基づく効果的な漁場管理が実現され、賑わいのある川づくり、地域の活性化につながっていくことが期待されます。

※とちぎ水試ニュース No. 3

(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g65/documents/suishinews_no3.pdf)



黒川での標識作業の様子
漁協と釣り人、約 15 名で標識
作業を行いました。



那珂川での標識作業の様子
子供から大人まで、約 35 名が
標識作業に参加しました。



標識された那珂川系 F1 種苗
脂ビレをはさみでカットして
標識しました。